

法人名	一般社団法人 若葉保育園
施設名	若葉保育園

発表者名 (職名)	熊本 晃喜 (代表理事)	住所	横浜市保土ヶ谷区保土ヶ谷町3-205		
発表者名 (職名)	大曲 真生 (主任補佐)	TEL	045-712-1960	FAX	045-712-1993
発表者名 (職名)		メールアドレス	info@wakabahoikuen.biz		
		URL	https://wakabahoikuennjimdoofree.com/		
		定員	69名	職員数	41名

発表の概要・内容

○保育研究をはじめたきっかけ

こどもや保護者を取り巻く環境が変化する中で、こどもの姿にも変化が出てきている事に気付く、保育環境の試行錯誤を日々行っていました。その試行錯誤のノウハウが蓄積され、共有されることにより保育の質の向上につながると考え、R4年度からスタートしました。

○保育研究の概要

R4年度は環境構成をテーマとして「子どもが集中できる、意欲的に取り組める、遊び込むことができる」「動線や視覚掲示によりスムーズな流れが生まれる」「保育者の制止的、指示的な声掛けが減る」にはどうすればよいか？という視点で取り組みました。
年度ごとの全体的な振り返りの中で未知への不安感をワクワクに変えるために「直接的な体験」の重要性を感じるようになり、R5年度からは、五感や好奇心を刺激し、想像力や創造性を養えるよう、素材に触れることを取り入れました。単発で遊んで捨てるということはせず、子ども達の様子を踏まえて別の活かし方に発展させ、連続性を持たせるということを意識しました。
素材としては、紙テープ、カラーポリ袋、スズランテープ、小麦粉、段ボール、トイレットペーパーの芯、アルミホイル、食材等が挙げられます。

○素材に触れることによる気付き

・こどもの姿 「集中して遊び込む姿」「他者と協力する姿」「イメージを具現化するための試行錯誤をする姿」「興味関心の拡大」「食への興味が増す」

・保育者 「こどもの自由な発想に驚き」「こどもの様々な反応や表情を知る」「個々の発達のアセスメントにもつながる」

○年長クラス事例

・段ボール遊び（積む⇒積むゲーム⇒段ボールでうちをつくる⇒段ボールかくれんぼ⇒キャタピラ競争⇒段ボールを水に溶かす⇒溶けた段ボールでお団子や動物作り）
・トイレットペーパー（巻いてミイラになる⇒ちぎって見立て遊び⇒とかして洗濯糊をいれて感触遊び⇒お花紙もちぎって混ぜてみる⇒形を作って何かに見立ててみる）
・上記の経験を経て、子ども達の「紙っていろんな紙がある！」何で牛乳パックとか紙コップは水が染みないのかな？という気付きにつながりました。そして「紙ってどうやってできているの？」という疑問も生まれたので実際に紙漉きを行い、オリジナルカードを作りました。また、紙ごみを資源ごみに仕分ける意識も自然と生まれました。

メモ